

平成 29 (2017) 年度 学習院大学 卒業生調査

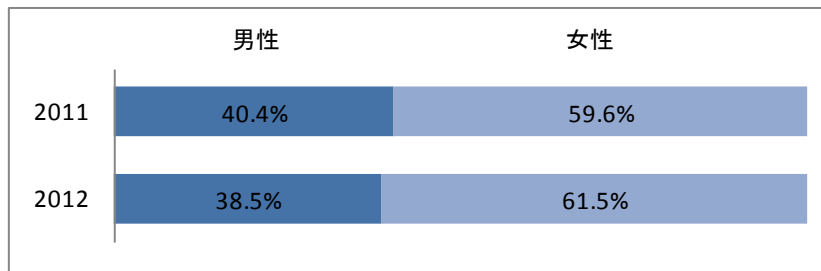
第 1 章 基本集計結果

調査概要

調査目的	本学卒業生の大学在学中の学習や諸経験が卒業後のキャリアや生活とどのような関係にあるのかを検証すること。
調査対象	平成 29 年度実施：平成 23 年度卒の学部卒業生（2012 年 3 月卒業、「2012」群と表記） ※本報告書では、あわせて前回平成 28 年度実施のうち平成 22 年度卒回答を集計・分析する。 平成 28 年度実施：平成 22 年度卒の学部卒業生（2011 年 3 月卒業、「2011」群と表記）
調査時期	平成 29 年 10 月 28 日～平成 30 年 2 月 5 日
調査方法	郵送にて依頼状を送付し、郵送にて返送あるいは Web 上のアンケートフォームにて回答
調査項目	Q 1…フェイスシート 性別、年齢、学科、入試方式、配偶者、子ども、現住所 Q 2…高校の学習習慣 Q 3…高校までの留学経験 Q 4…高校の成績（相対的かつ主観的な成績。上位・下位など） Q 5…学習院入学の決定経緯 Q 6…大学時代の講義・演習への取り組み Q 7…大学時代楽しみだった授業 Q 8…大学時代の学習時間（1 週間あたり） Q 9…大学時代の学び方 Q 10…大学時代の成績（相対的かつ主観的な成績。上位・下位など） Q 11…大学時代の課外活動への取り組み Q 12…大学時代の留学経験 Q 13…卒論・卒研の経験有無 Q 14…卒論・卒研執筆時に意識したこと Q 15…卒論・卒研の意義 Q 16…大学時代に身につけた知識や能力（前回実施概要報告書の「社会人総合力」） Q 17…大学時代の教育と生活の満足度 Q 18…卒業した直後の進路 Q 19…現況 Q 20…海外での勤務経験 Q 21…卒業後のライフイベント（就職、転職、結婚、出産、退職） Q 22…キャリアのための学習（前回実施の本調査ではこれを「生涯学習」としている） Q 23…仕事に役だった大学での学び Q 24…大学でもっと学んでおけばよかったこと Q 25…現在の仕事への満足度 Q 26…現在身につけている知識・能力 (Q 16 と同様の項目で多少の文言が調整されている)

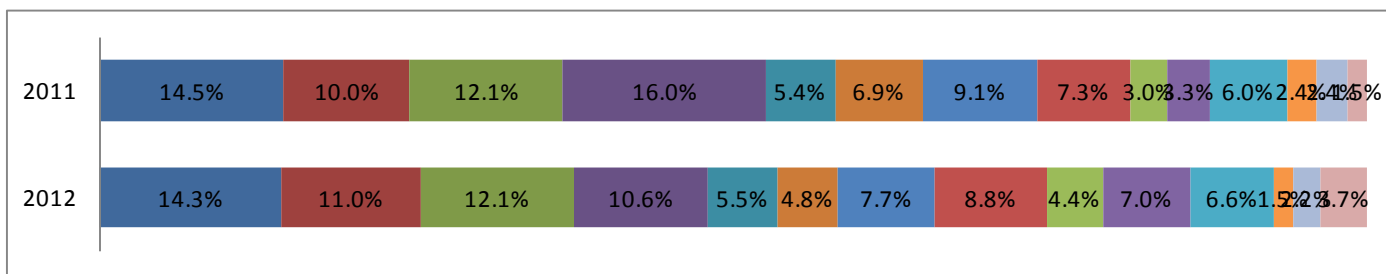
Q01 回答者属性

回答者の性別と年齢



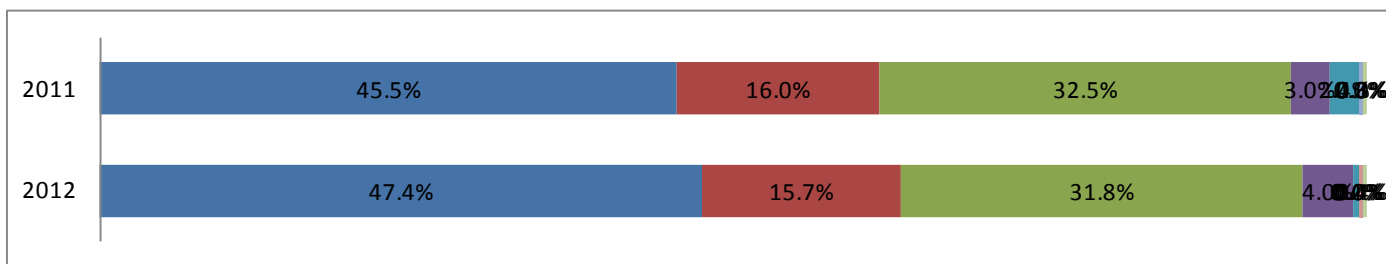
	男性	女性	平均年齢	最小年齢	最大年齢
2011	134	198	27.4	26	55
2012	106	169	27.5	26	35

学科別回答人数



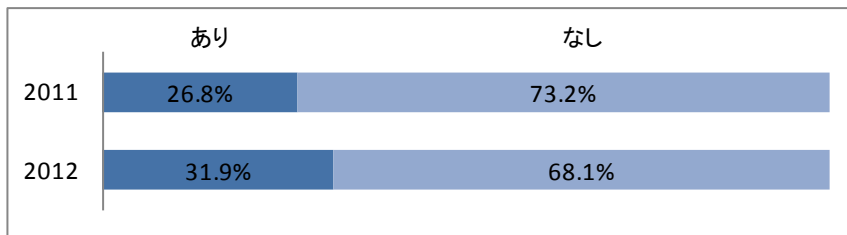
	1. 法学科	2. 政治学科	3. 経済学科	4. 経営学科	5. 哲学科	6. 史学科	7. 日本語日本文学科	8. 英語英米文化学科	9. ドイツ語圏文化学科	10. フランス語圏文化学科	11. 心理学科	12. 物理学科	13. 化学科	14. 数学科
2011	48 14.5%	33 10.0%	40 12.1%	53 16.0%	18 5.4%	23 6.9%	30 9.1%	24 7.3%	10 3.0%	11 3.3%	20 6.0%	8 2.4%	8 2.4%	5 1.5%
2012	39 14.3%	30 11.0%	33 12.1%	29 10.6%	15 5.5%	13 4.8%	21 7.7%	24 8.8%	12 4.4%	19 7.0%	18 6.6%	4 1.5%	6 2.2%	10 3.7%

入学にあたっての入試方式

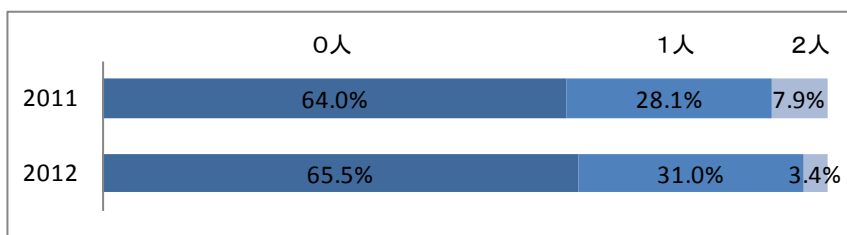


	1. 一般入試	2. 男女高等科からの進学	3. 指定校推薦入試	4. 公募制推薦入試	5. 海外帰国生入試	6. 外国人学生特別入試	7. 社会人入試	8. 編入学試験	9. 転部・転科
2011	151 45.5%	53 16.0%	108 32.5%	10 3.0%	8 2.4%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.3%
2012	130 47.4%	43 15.7%	87 31.8%	11 4.0%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	1 0.4%

配偶者の有無



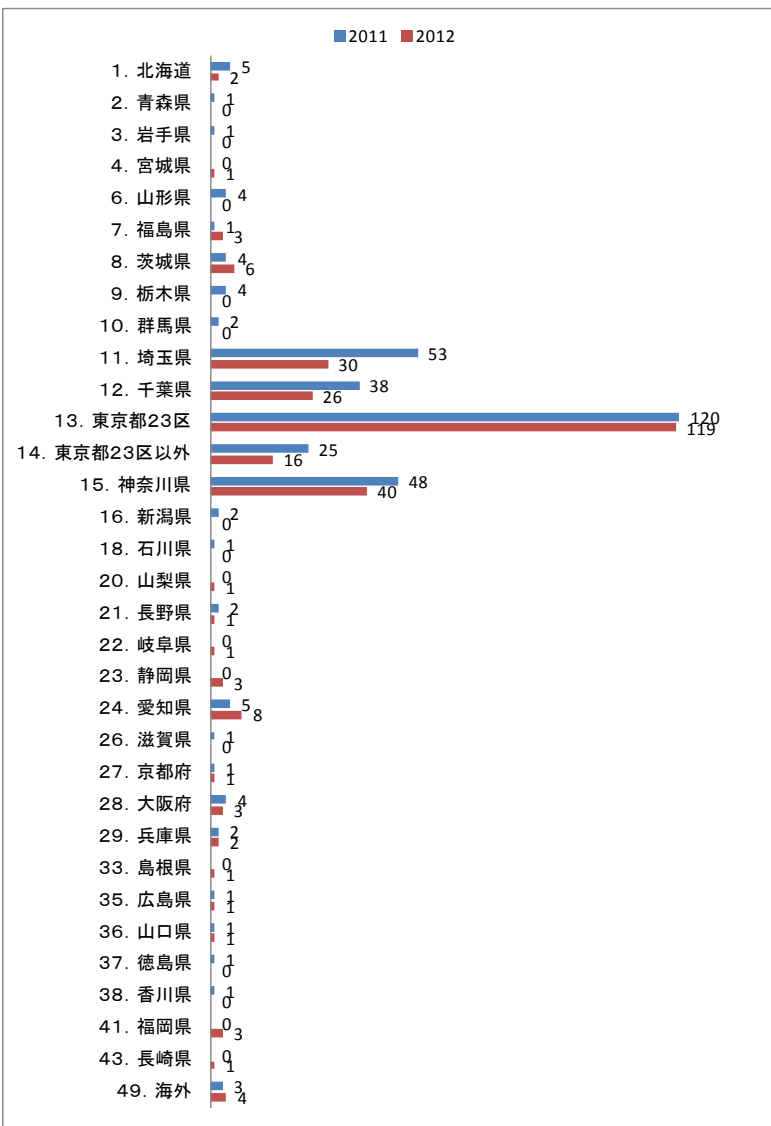
子供の人数



※ 配偶者ありの人数を100%として計算。

現在のお住まい

	2011	2012
1. 北海道	5	2
2. 青森県	1	0
3. 岩手県	1	0
4. 宮城県	0	1
6. 山形県	4	0
7. 福島県	1	3
8. 茨城県	4	6
9. 栃木県	4	0
10. 群馬県	2	0
11. 埼玉県	53	30
12. 千葉県	38	26
13. 東京都23区	120	119
14. 東京都23区以外	25	16
15. 神奈川県	48	40
16. 新潟県	2	0
18. 石川県	1	0
20. 山梨県	0	1
21. 長野県	2	1
22. 岐阜県	0	1
23. 静岡県	0	3
24. 愛知県	5	8
26. 滋賀県	1	0
27. 京都府	1	1
28. 大阪府	4	3
29. 兵庫県	2	2
33. 島根県	0	1
35. 広島県	1	1
36. 山口県	1	1
37. 徳島県	1	0
38. 香川県	1	0
41. 福岡県	0	3
43. 長崎県	0	1
49. 海外	3	4

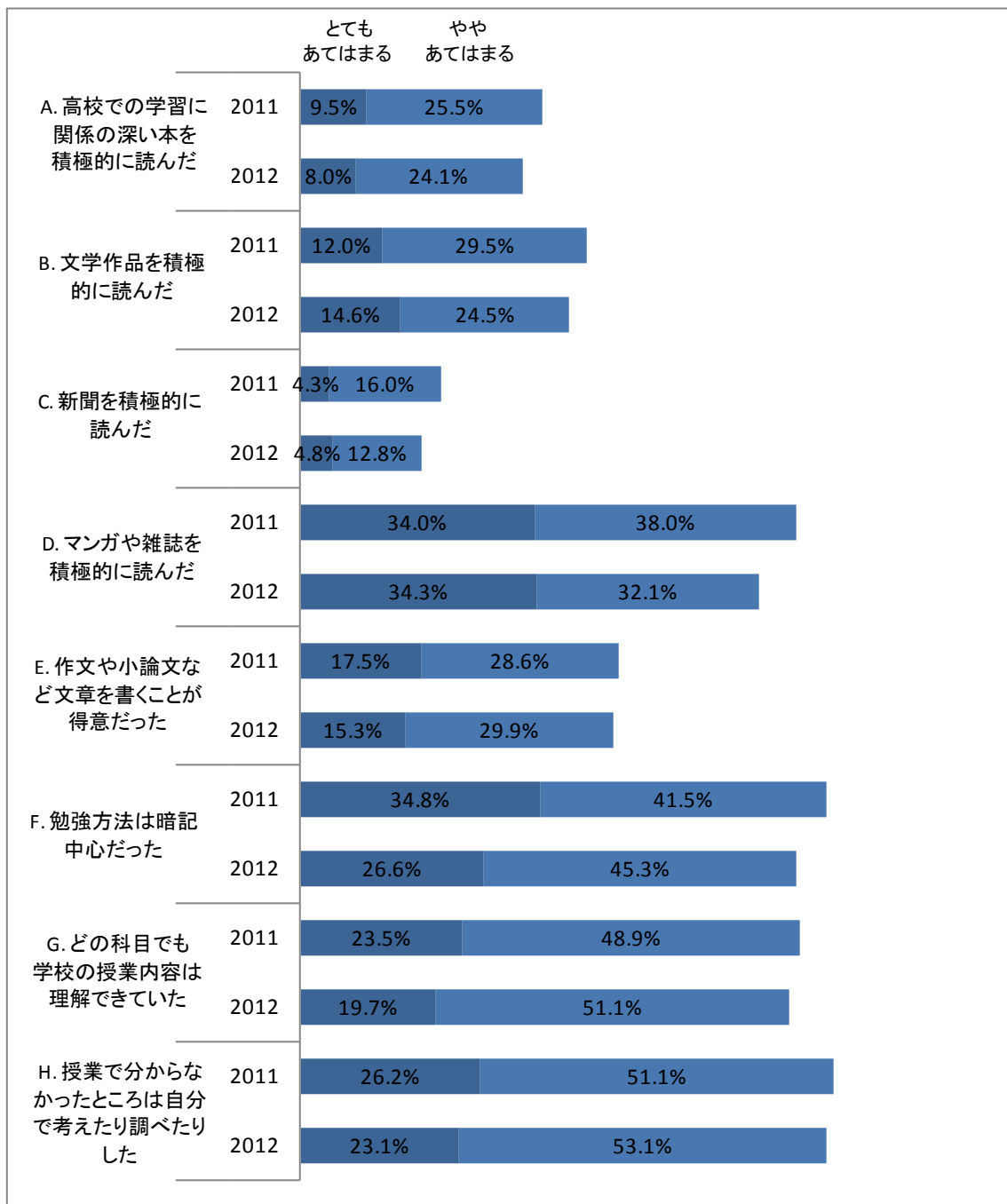


※ 2011年卒・2012年卒の両学年で人数が0人の都道府県は記載していない。

大学入学時点までのことがら

Q02 高校時代のあなたの習慣について、あてはまるものを1つ選んでください。

(「とてもあてはまる」～「全くあてはまらない」の4件法)



●高校時代から習慣化されていたもの（「あてはまる」、「ややあてはまる」の合算）

F、G、Hは、どちらの学年でも7割以上が行っていた。また特に2011年卒の学生はDの項目も多く、マンガや雑誌も高校時代に習慣の一つになっていることがうかがえる。

●高校時代には習慣化されていなかったもの

Cはほとんど習慣にはなっていない。また、Aも両学年で35%程度であり、まとまった文章や情報源を積極的に吸収するというよりは、Hのように分からないところを部分的に調べるタイプの学習が主であったことがうかがえる。

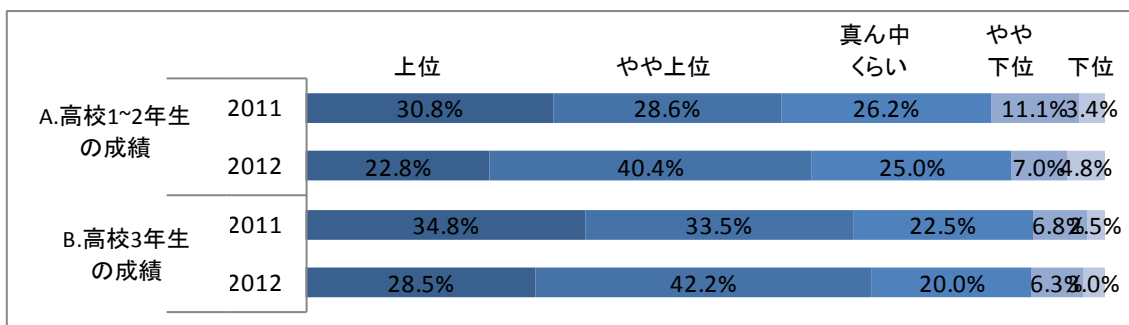
Q03 あなたは、中学・高校時代に、海外で過ごした経験（留学や短期研修旅行、修学旅行なども含む）がありますか。



	2011	2012
1週間未満	4	16
1週間以上2週間未満	30	20
2週間以上1ヶ月未満	44	35
1ヶ月以上2ヶ月未満	14	14
2ヶ月以上1年未満	4	6
1年以上	13	4
合計(人)	109	95
平均日数(日)	207.17	51.81

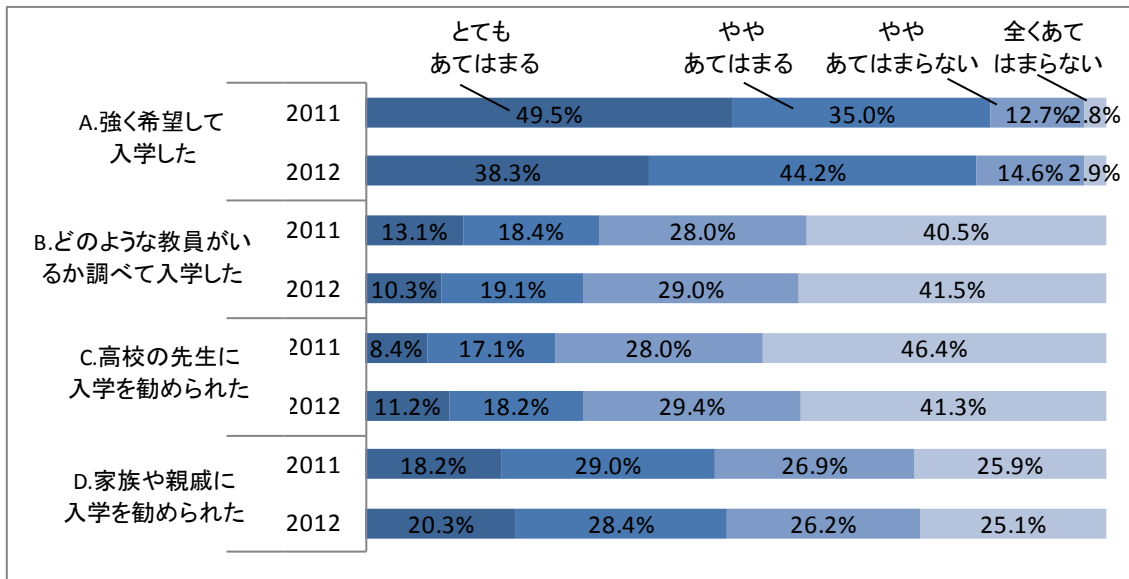
大学入学以前に海外経験がある学生は、両学年とも 35%程度であった。2週間以上のある程度中長期にわたった経験者も 2011 年卒で 75 名 (68.8%)、2012 年卒で 59 名 (62.1%) と 6 割を超えている。この二学年にかけては微増になっているものの、今後の継続的な調査での観察が必要であろう。

Q04 あなたの高校時代の成績はどのくらいだったと思いますか。
 (「上位」～「下位」の 5 件法)



高校 3 年生の成績は比較的上位であったと答えた学生が 68.3% (2011 年卒)、70.7% (2012 年卒) (「上位」、「やや上位」と、多くの学生は高校時代に上位にいたと自覚している。

Q05 あなたが卒業した学科への入学について、あてはまるものを1つ選んでください。
 (「とてもあてはまる」～「全くあてはまらない」の5件法)

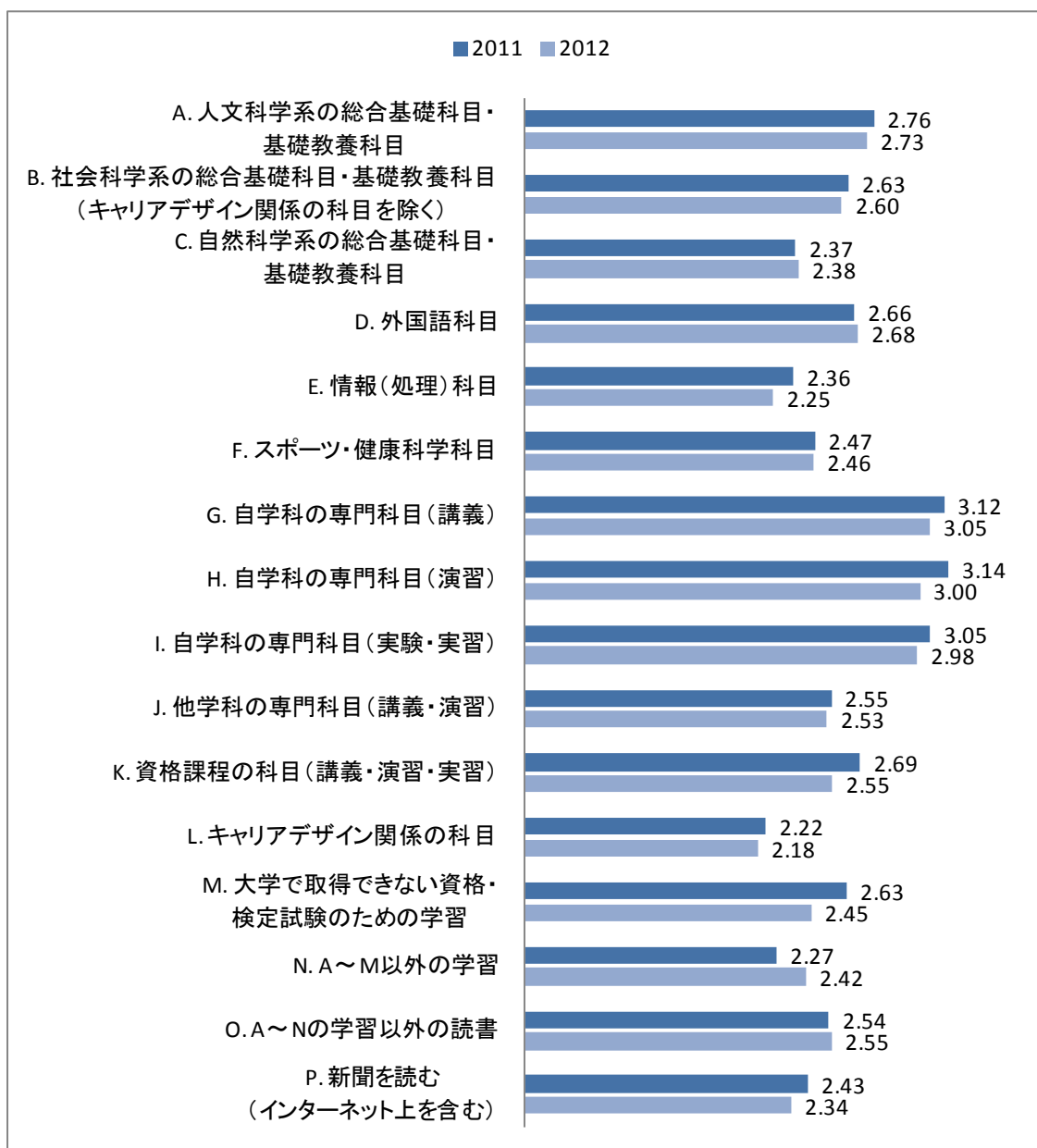


Aは「とてもあてはまる」、「ややあてはまる」の合計が両学年とも80%を超えており、多くの学生が強く希望して入学したことがうかがえる。一方、教員まで調べて入学する学生は少ない。

他者からの勧めに関しては、家族・親戚からの勧めは50%弱程度、高校の先生からの勧めは30%未満であることがわかった。

大学時代における学習や課外活動

Q06 あなたは、大学在学中、大学の授業やその他の学習などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。授業時間外の予習や復習なども考慮して、あてはまるものを1つ選んでください。（「経験しなかった」を0として、「とても意欲的だった」（4）～「全く意欲的でなかった」（1）の5件法）

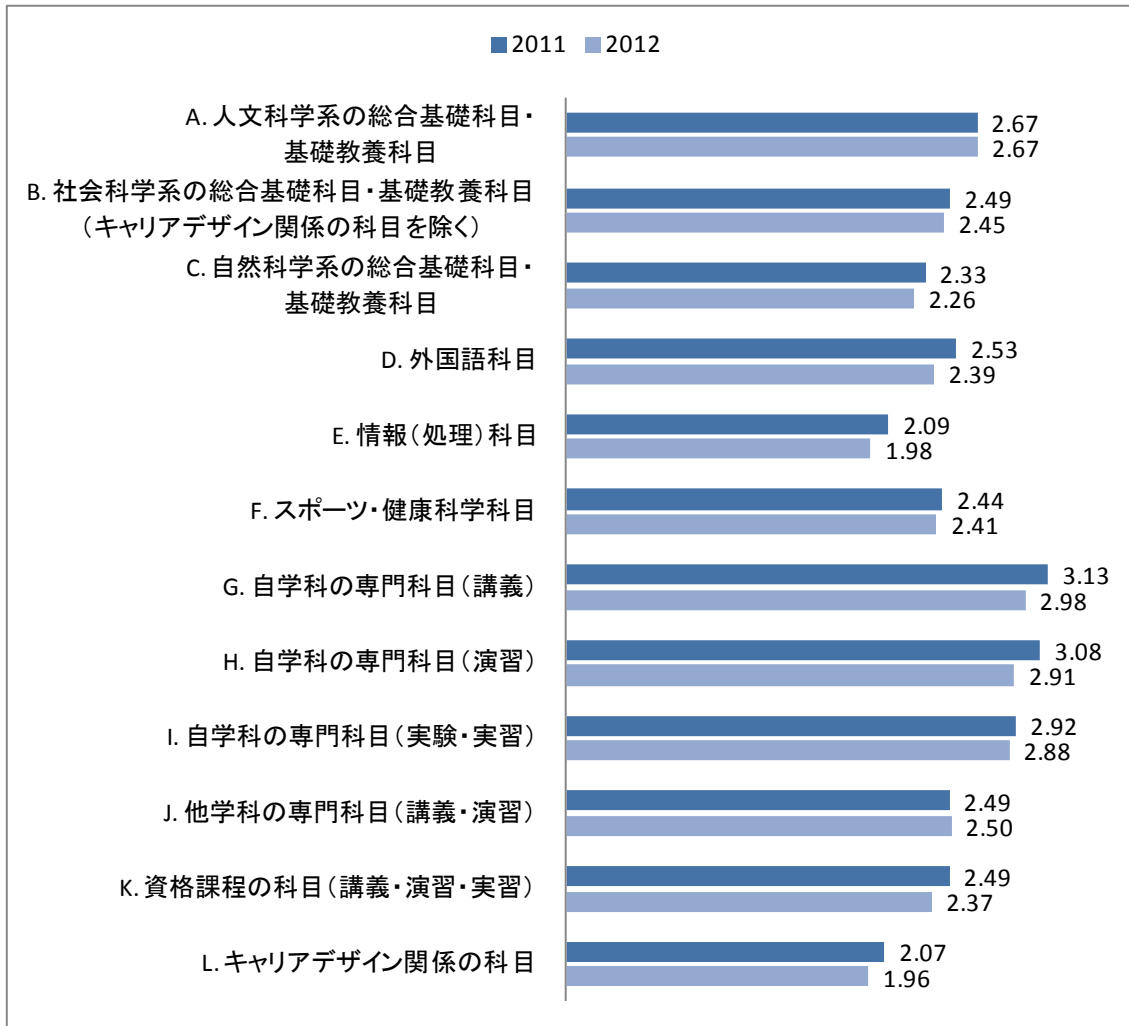


※ 平均値の計算には、0と回答した卒業生を含まない。

両学年とも、G、H、Iといった自学科の専門に関する科目は意欲的に取り組んだことが分かる。一方、情報科目や、キャリアデザイン関係の科目には、あまり意欲的に取り組んではいなかったようである。二学年の間に違いはほとんど見受けられず、この結果は、この時期の本学卒業生の傾向といえるだろう。

Q07 あなたは、大学の授業の中で、授業を受けることが楽しみだった科目はどの程度ありましたか。

（「経験しなかった」を0として、「5割以上あった」（4）～「ほとんどなかった」（1）の5件法）

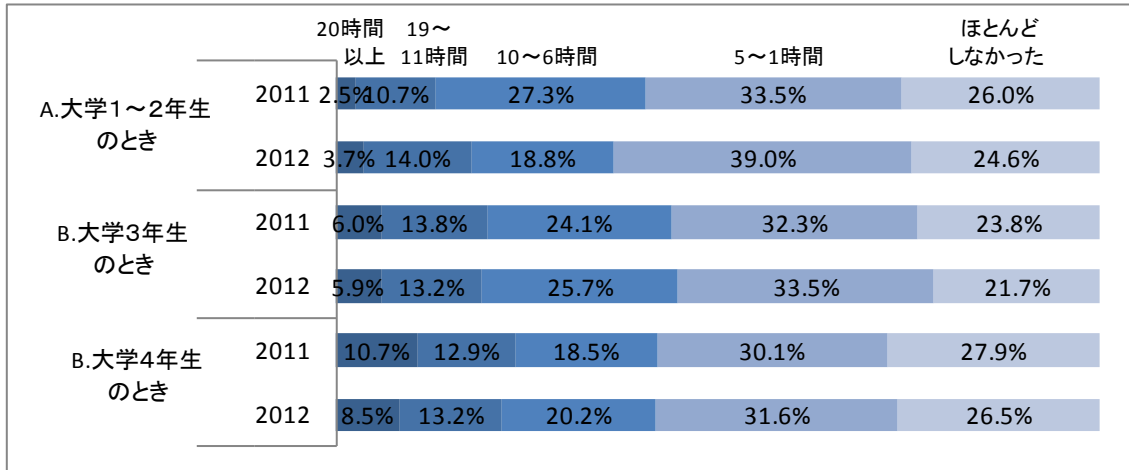


※ 平均値の計算には、0と回答した卒業生を含まない。

楽しみだった科目も、概ね自学科の学科の専門科目であったことが分かる。ここでも情報処理科目やキャリアデザイン関係の科目は低めの値であった。Q05 取り組み意欲との関連で観察できることとして、おおよそどの科目も傾向は同様だが、資格課程の科目に関しては、意欲的には取り組んでいたが、楽しみだったかというときほどではなかった、といえるかもしれない。これは、資格取得という目的が重視されていたことを示していると思われる。

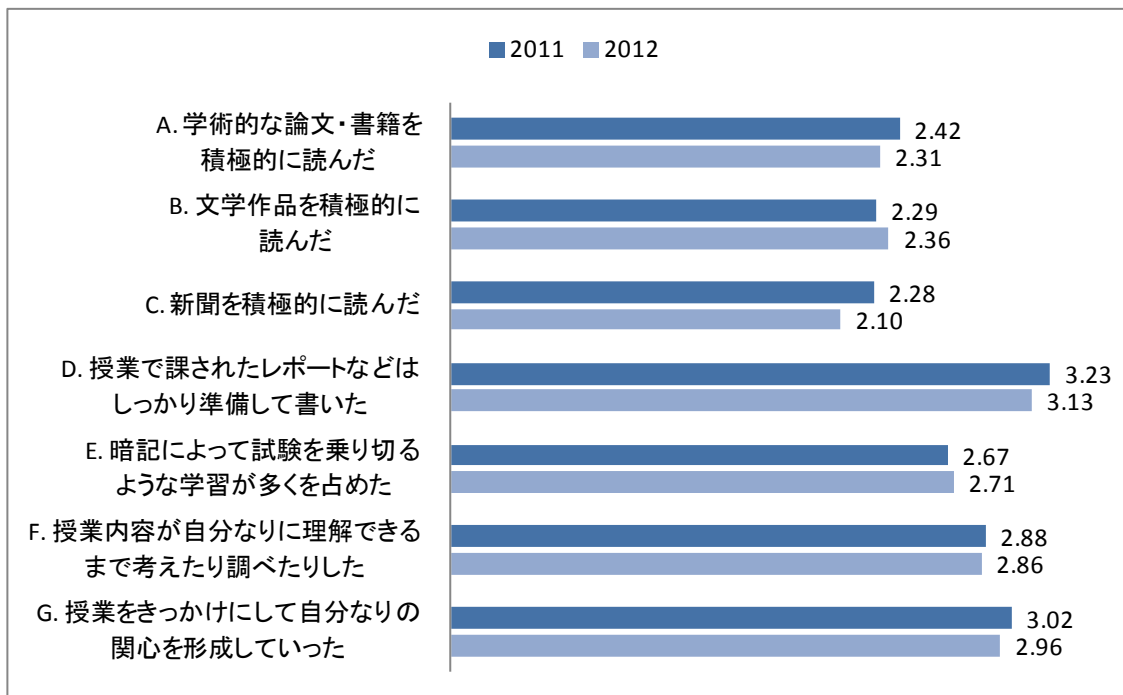
Q08 あなたは、大学在学中、1週間あたり平均でどのくらい「自学自習」（授業の予習・復習、レポート作成、授業とは関係のない学習などを含む日常的な学習時間で、定期試験のための学習時間は除きます）をしていましたか。

（「20時間以上」～「ほとんどしなかった」の5件法）



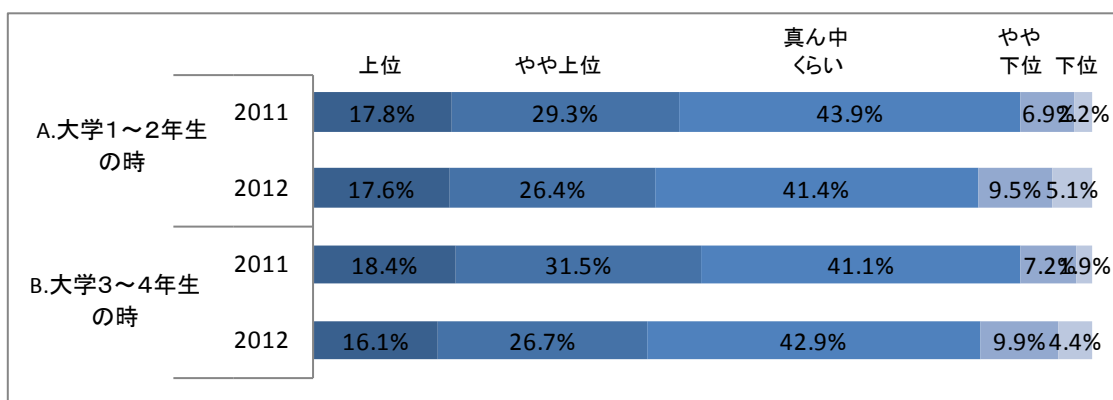
両学年とも、どの学年であったときも自学自習の時間は大きな変動がないように見受けられる。「時間」という観点でみると、大学1年生時、あるいはそれ以前（高校まで）に形成された学習習慣がそのまま維持されると考えるのが自然であろう。

Q09 あなたは、大学在学中、どのような学び方をしてきましたか。
 (「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の4件法)



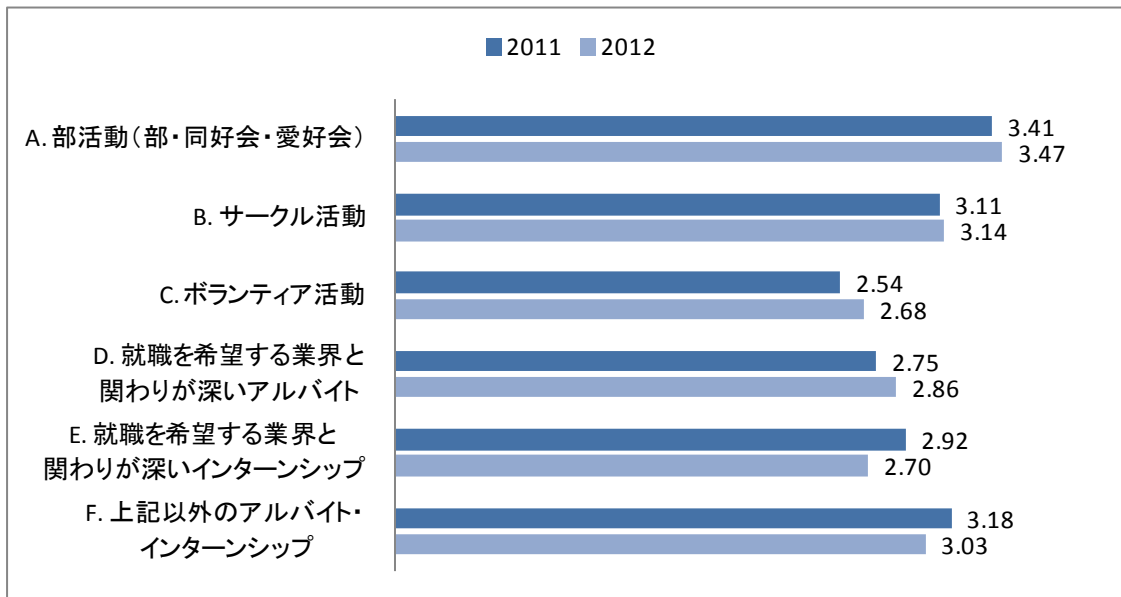
Dが最も高く、また平均で「ややあてはまる」の3を両学年で超えるため、授業での課題等へはしっかり準備して取り組んでいたことが分かる。また、暗記によって試験を乗り切るよりも、授業内容が理解できるまで調べたり、自分なりの関心を形成していったりと、思索をとまなう学習が行われていた。ただし高校までと同じく、新聞は読まれない傾向にある。

Q10 あなたの大学在学時の成績はどのくらいだったと思いますか。
 (「上位」～「下位」の5件法)



真ん中くらいと答えた卒業生が最も多く、「上位」、「やや上位」の回答がどの学年のときも40%を超え、回答者のうち半分程度が良い成績をとっていたと自覚している。

Q11 あなたは、大学在学中、課外活動などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。
 (「経験しなかった」を0として、「とても意欲的だった」(4)～「全く意欲的でなかった」(1)の5件法)



経験者の人数と割合

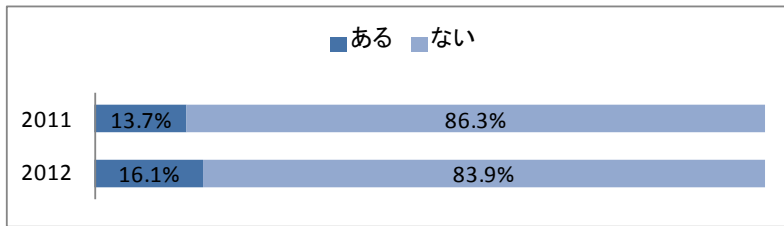
	2011		2012	
	経験者数	割合	経験者数	割合
A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	178	55.5%	149	55.0%
B. サークル活動	166	52.2%	138	50.7%
C. ボランティア活動	81	25.2%	81	29.9%
D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	111	34.7%	95	34.9%
E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	95	29.8%	81	29.9%
F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	228	71.5%	212	78.2%

部活動やサークル活動の経験者は半数以上で、意欲も高く、活発に活動していたことがうかがえる。一方、ボランティア活動の経験者は25%程度で、意欲も相対的に低い値であった。

Fの就職を希望する業界に関連しないアルバイト・インターンシップの経験者は両学年とも70%を超え、またDやEよりも意欲が高い傾向にある。このことは、就職を希望する業界とは関連しないことから、プレッシャーをあまり感じないからなどの理由が考えられるが、引き続き検討が必要と思われる。

Q12 あなたは、大学在学中、留学（海外短期研修や国際ボランティアなどを含みますが、単なる海外旅行は除きます）の経験がありますか。

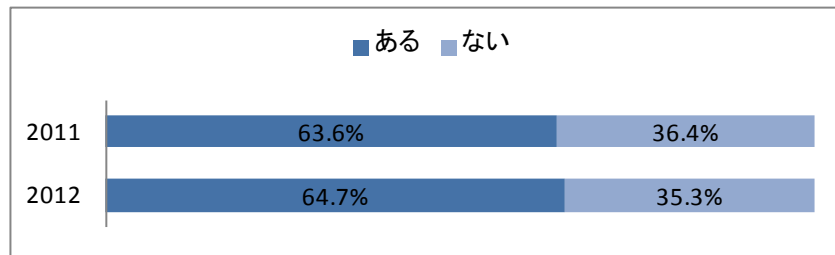
（経験の有無と経験ありの場合の日数）



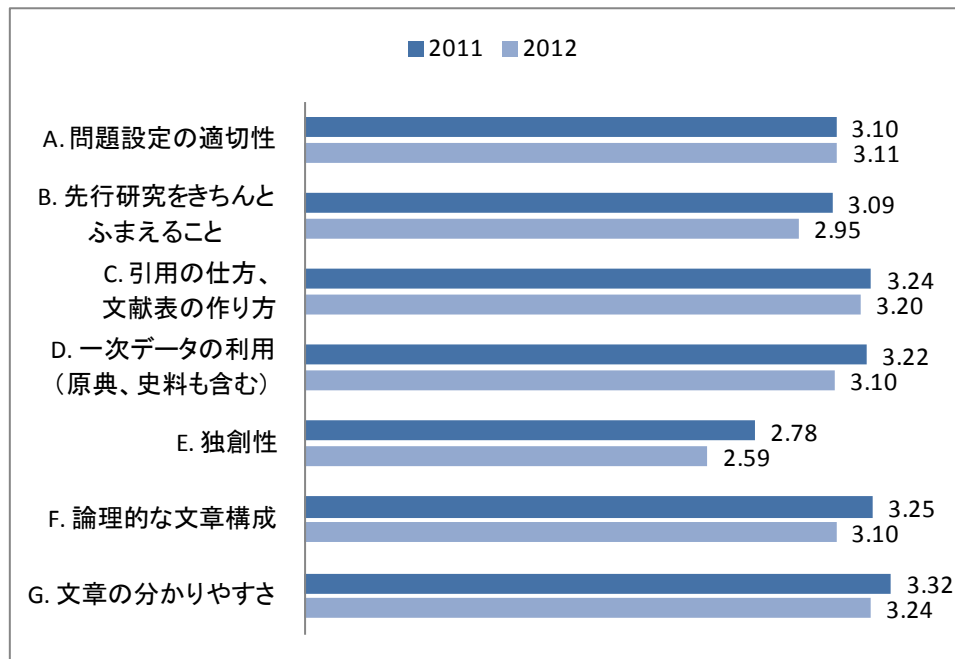
	2011	2012
1週間未満	0	1
1週間以上2週間未満	9	2
2週間以上1ヶ月未満	10	9
1ヶ月以上2ヶ月未満	14	20
2ヶ月以上1年未満	9	9
1年以上	2	3
合計	44	44
平均日数	60.32	77.80

大学時代の海外経験は15%前後で、経験人数・期間ともに両学年で同様の傾向であった。平均日数は2～3ヶ月だが、主に、1ヶ月～2ヶ月間の中期プログラムへの参加が多い。

Q13 あなたは、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）を執筆しましたか。
 （経験の有無と経験ありの場合日数）



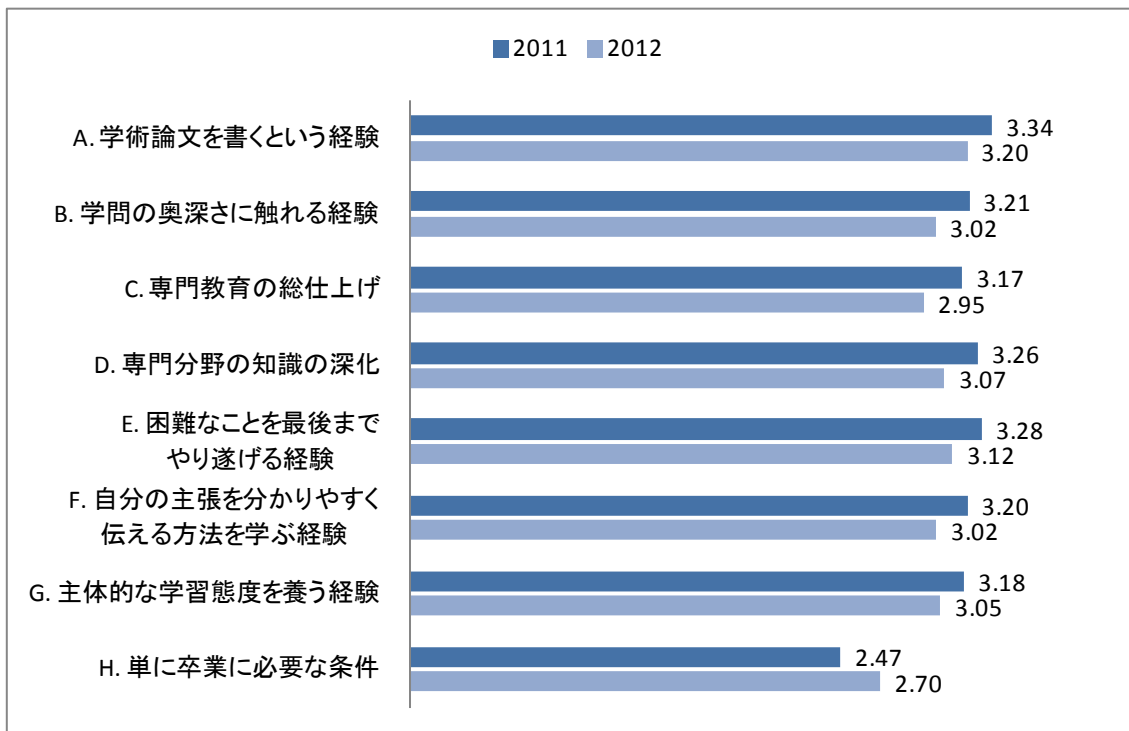
Q14 あなたは、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）を書くときに、以下の点をどのくらい意識していましたか。
 （「とても意識した」（4）～「全く意識しなかった」（1）の4件法）



卒業論文・卒業研究は、全体の60%強が執筆しており、執筆にあたり意識した点も両学年とも同様の傾向であった。Eを除き、どの項目も一定程度意識されているようである。Eと比較して、相対的に先行研究やその分野における問題設定の適切性が意識されていることから、研究の基本的な流れにしっかりと則った経験を積むことが重視されているといえるだろう。

Q15 今のあなたにとって、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）の執筆にはどのような意義があったと思いますか。

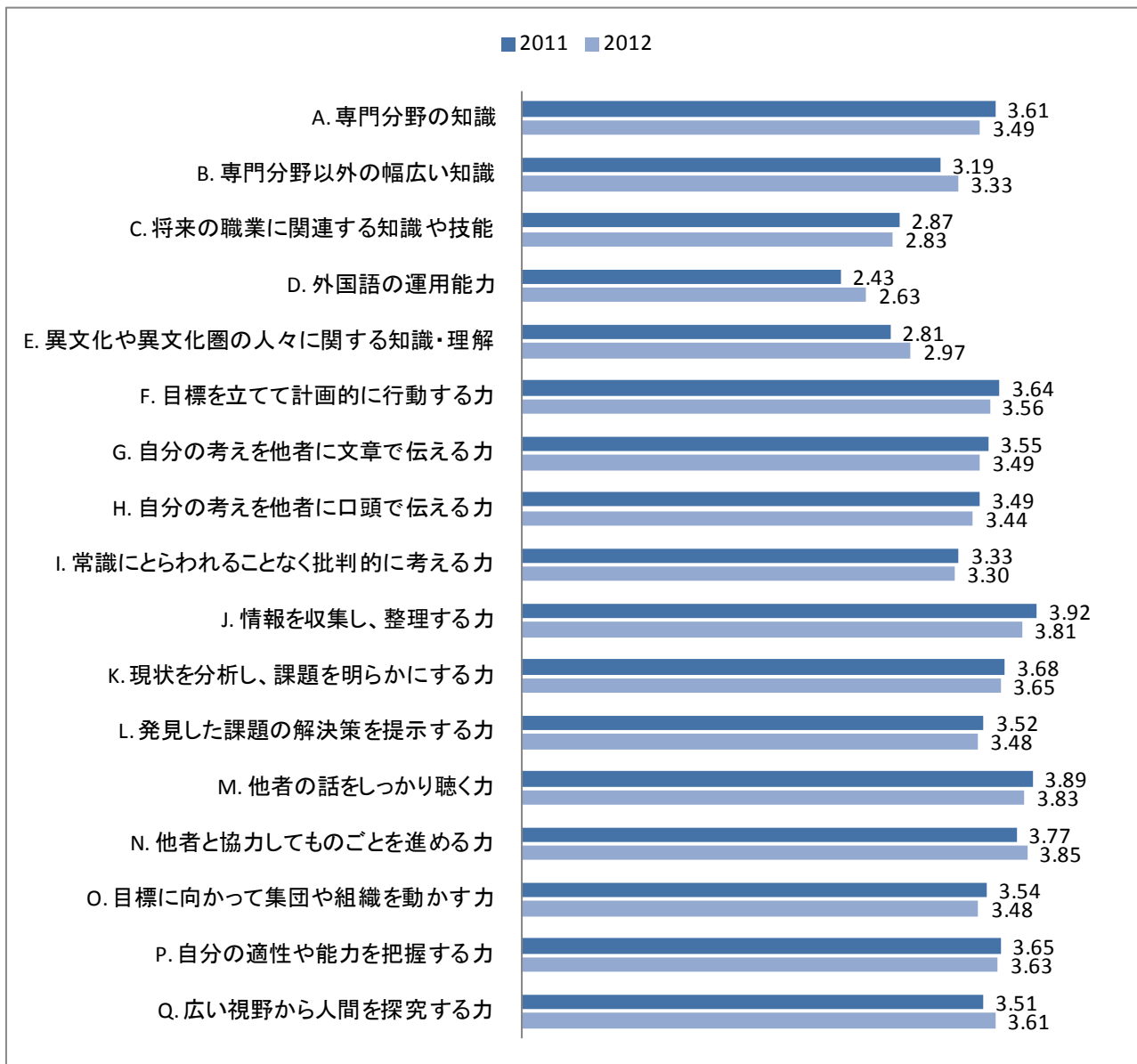
（「とてもあてはまる」（4）～「全くあてはまらない」（1）の4件法）



H 以外の項目は、どの項目も一定程度意義として感じられているようである。卒業後5年経過時点で、振り返って卒論・卒研の執筆体験の意義を様々な側面から感じ取っていることがうかがえる。

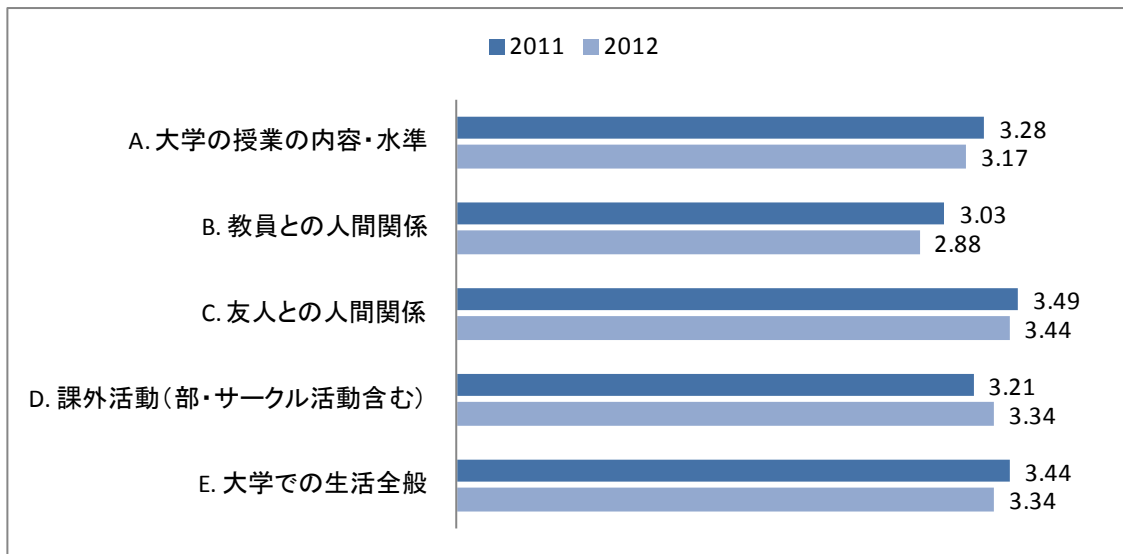
Q16 大学卒業段階で、あなたは、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができたと思いますか。

（「しっかり身についた」（5）～「全く身につかなかった」（1）の5件法）



両学年とも、平均で4を超える項目はなかった。相対的に値が高い項目は、J、M、Nが挙げられる。M・Nといった他者との協調性に関する項目が高いことは、本学学生の卒業時の強みといえるかもしれない。翻って、DやEのような外国語や異文化理解に関する能力の向上は課題であることが分かる。

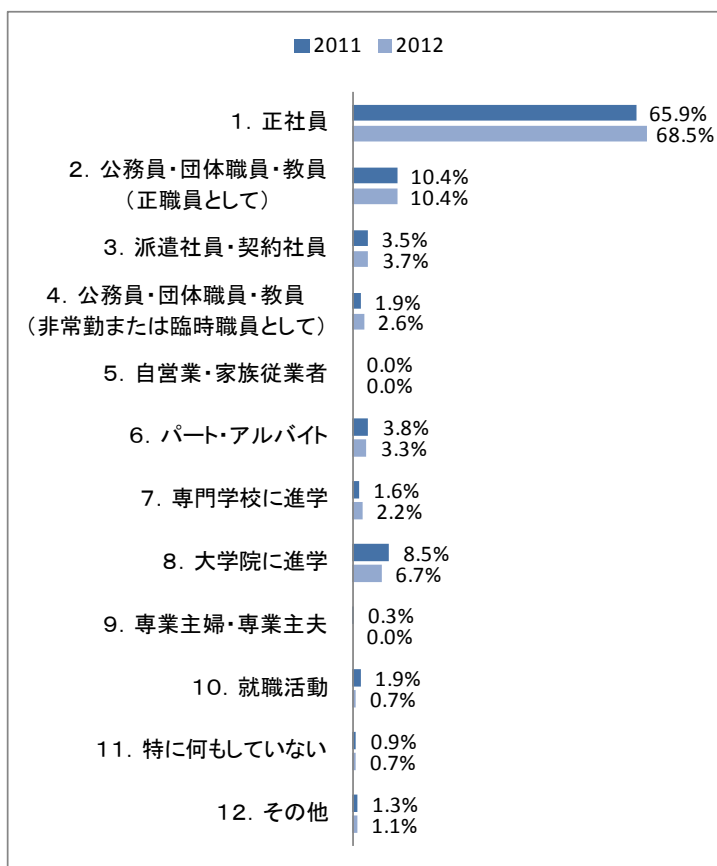
Q17 あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。
（「とても満足している」（4）～「全く満足していない」（1）の4件法）



概ねどの項目においても3を超えており、全般的には高い値であった。友人との人間関係に比べて、教員との人間関係への満足度は低い。友人との関係と教員との関係とは異なる性質のものであるから、どのような関係が適切であるかを検討し、学生と共有していくことは価値ある取組みかもしれない。

大学卒業後のことがら

Q18 あなたが大学を卒業した直後の進路としてあてはまるものを1つ選んでください。
(複数ある場合は主たるもの1つを選択)

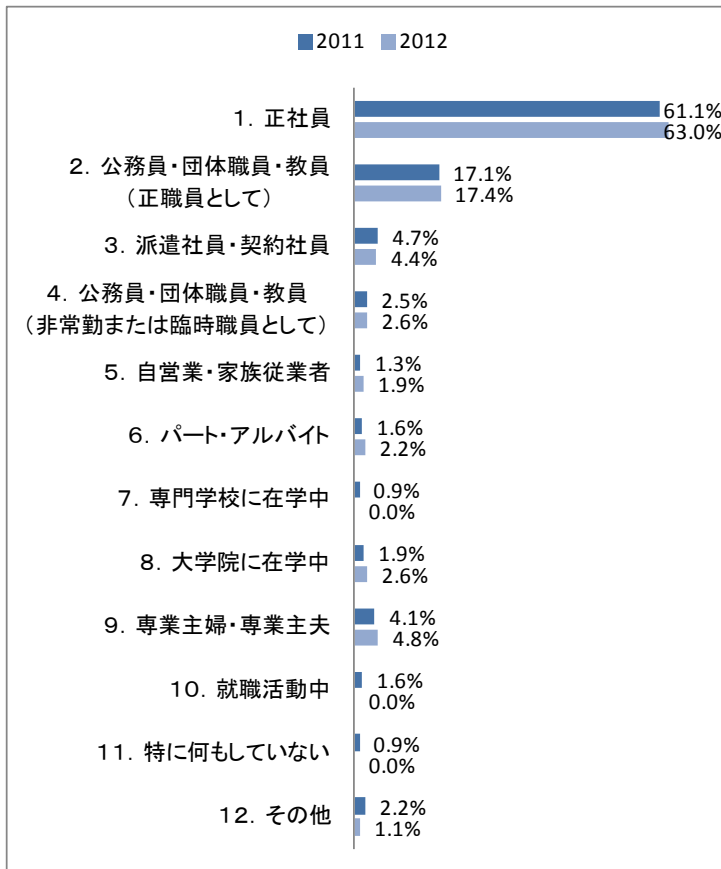


	2011	2012
1. 正社員	209	185
2. 公務員・団体職員・教員 (正職員として)	33	28
3. 派遣社員・契約社員	11	10
4. 公務員・団体職員・教員 (非常勤または臨時職員として)	6	7
5. 自営業・家族従業者	0	0
6. パート・アルバイト	12	9
7. 専門学校に進学	5	6
8. 大学院に進学	27	18
9. 専業主婦・専業主夫	1	0
10. 就職活動	6	2
11. 特に何もしていない	3	2
12. その他	4	3

民間企業が65%以上、公務員が10%、大学院への進学が7~8%で、あわせて約80%以上を占める結果となった。この二学年間に、特段の傾向の違いはみられない。

任意のアンケート調査であることから、回答に偏りがあることは否定できないが、卒業時に進路が未定であった者は僅少であった。

Q19 あなたの現況（各年の調査時期）としてあてはまるものを1つ選んでください。
 （複数ある場合は主たるもの1つを選択）



	2011	2012
1. 正社員	193	170
2. 公務員・団体職員・教員 (正職員として)	54	47
3. 派遣社員・契約社員	15	12
4. 公務員・団体職員・教員 (非常勤または臨時職員として)	8	7
5. 自営業・家族従業者	4	5
6. パート・アルバイト	5	6
7. 専門学校に進学	3	0
8. 大学院に進学	6	7
9. 専業主婦・専業主夫	13	13
10. 就職活動	5	0
11. 特に何もしていない	3	0
12. その他	7	3

	2011	2012
1. 正社員	-16	-15
2. 公務員・団体職員・教員	21	19
3. 派遣社員・契約社員	4	2
4. 公務員・団体職員・教員	2	0
5. 自営業・家族従業者	4	5
6. パート・アルバイト	-7	-3
7. 専門学校に在学中	-2	-6
8. 大学院に在学中	-21	-11
9. 専業主婦・専業主夫	12	13
10. 就職活動中	-1	-2
11. 特に何もしていない	0	-2
12. その他	3	0

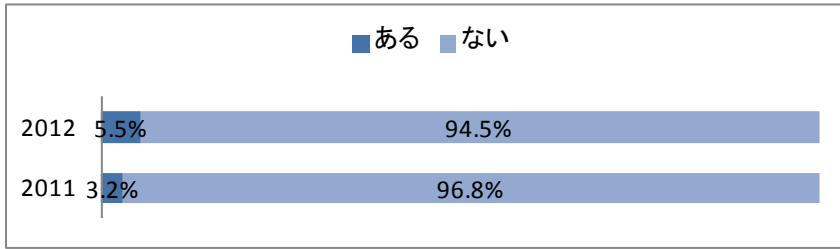
大学卒業後に関する Q18 と比較すると、正社員の割合が減り、公務員・団体職員・教員が増加している。また、専門学校生・大学院生は減少、専業主婦・主夫は増加した。ここでは個人個人のデータの変動は参照していないが、卒業後の5年間にこのような変動があり、ライフステージの変化が見てとれる。

Q20 あなたは、これまでに海外での勤務経験がありますか。

(ある or ないの2択。ある場合は、期間も回答)

経験ありなしの割合

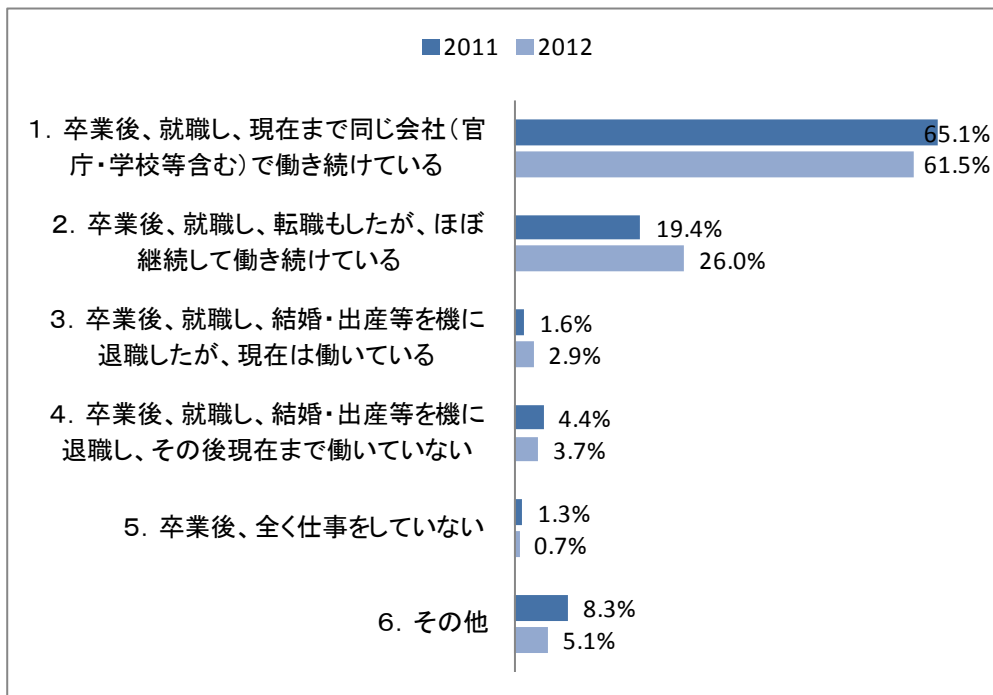
経験者の滞在期間の分布



	2011	2012
1年未満	3	8
2年未満	3	3
3年未満	1	2
4年未満	1	1
5年未満	2	1

卒業後5年間で、海外における勤務を経験した者はごくわずかであった。経験年数は幅広く、卒業後ほぼずっと海外で勤務している、という卒業生もあった。

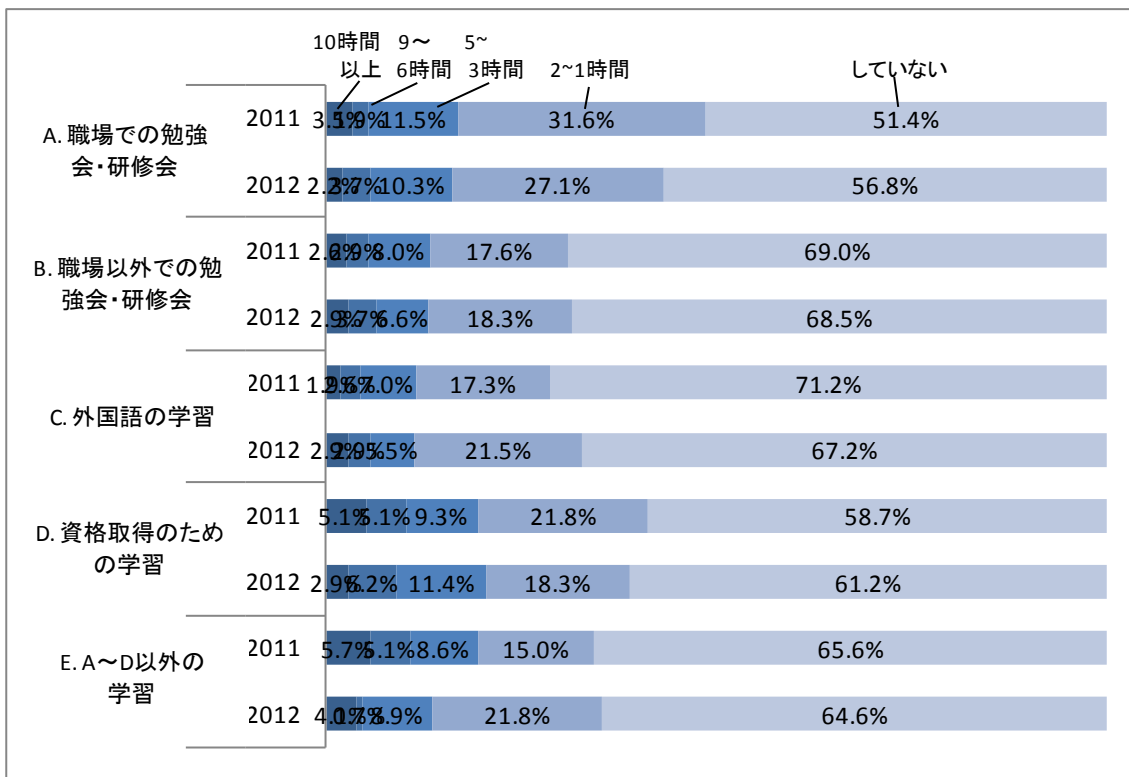
Q21 あなたは、大学卒業後、仕事とおおよそどのような関わり方をしてきましたか。
(1つを選択)



	2011	2012
1. 卒業後、就職し、現在まで同じ会社(官庁・学校等含む)で働き続けている	205	168
2. 卒業後、就職し、転職もしたが、ほぼ継続して働き続けている	61	71
3. 卒業後、就職し、結婚・出産等を機に退職したが、現在は働いている	5	8
4. 卒業後、就職し、結婚・出産等を機に退職し、その後現在まで働いていない	14	10
5. 卒業後、全く仕事をしていない	4	2
6. その他	26	14

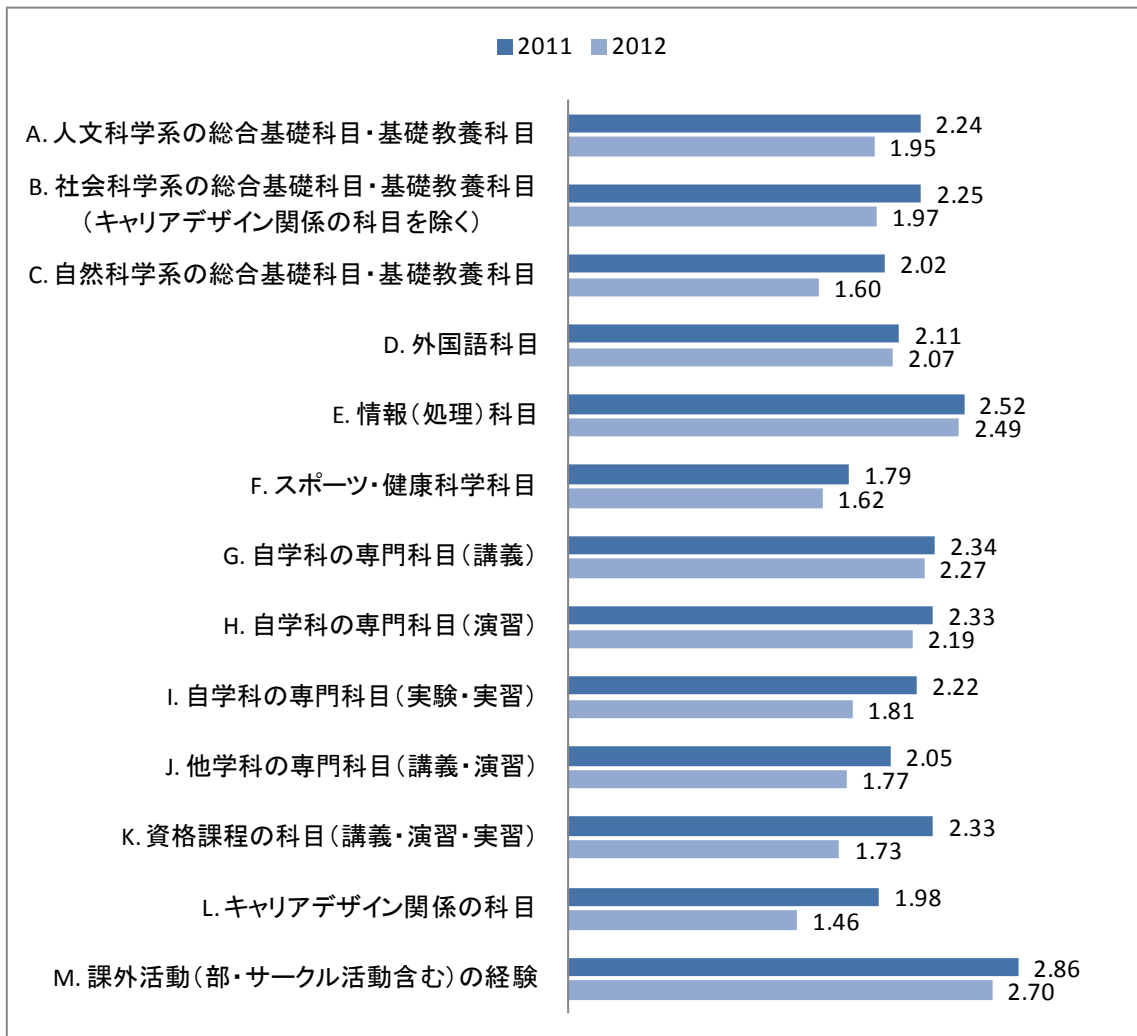
Q18 から Q19 にかけての変動の一部はここに表れている。卒業して就職後、経緯を問わず現在も働き続けている者は 2011 年卒で 86%、2012 年卒で 90.5%であった (1～3 の合算)。また、卒業直後の就職先からみると、5 年離職率は 35～40%に入ることとなる。

Q22 あなたは、現在の仕事や将来のキャリアのために、以下のような活動を1週間あたり平均でどのくらい行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。
 (「10時間以上」～「していない」の5件法)



どの項目も、少なくとも半分以上の卒業生がしていないと回答した。している場合も、多くが2～1時間であった。外国語は、卒業時点もあまり身についたと評価されなかった項目だが、卒業後もあまり学習する時間を取られていないことがうかがえる。

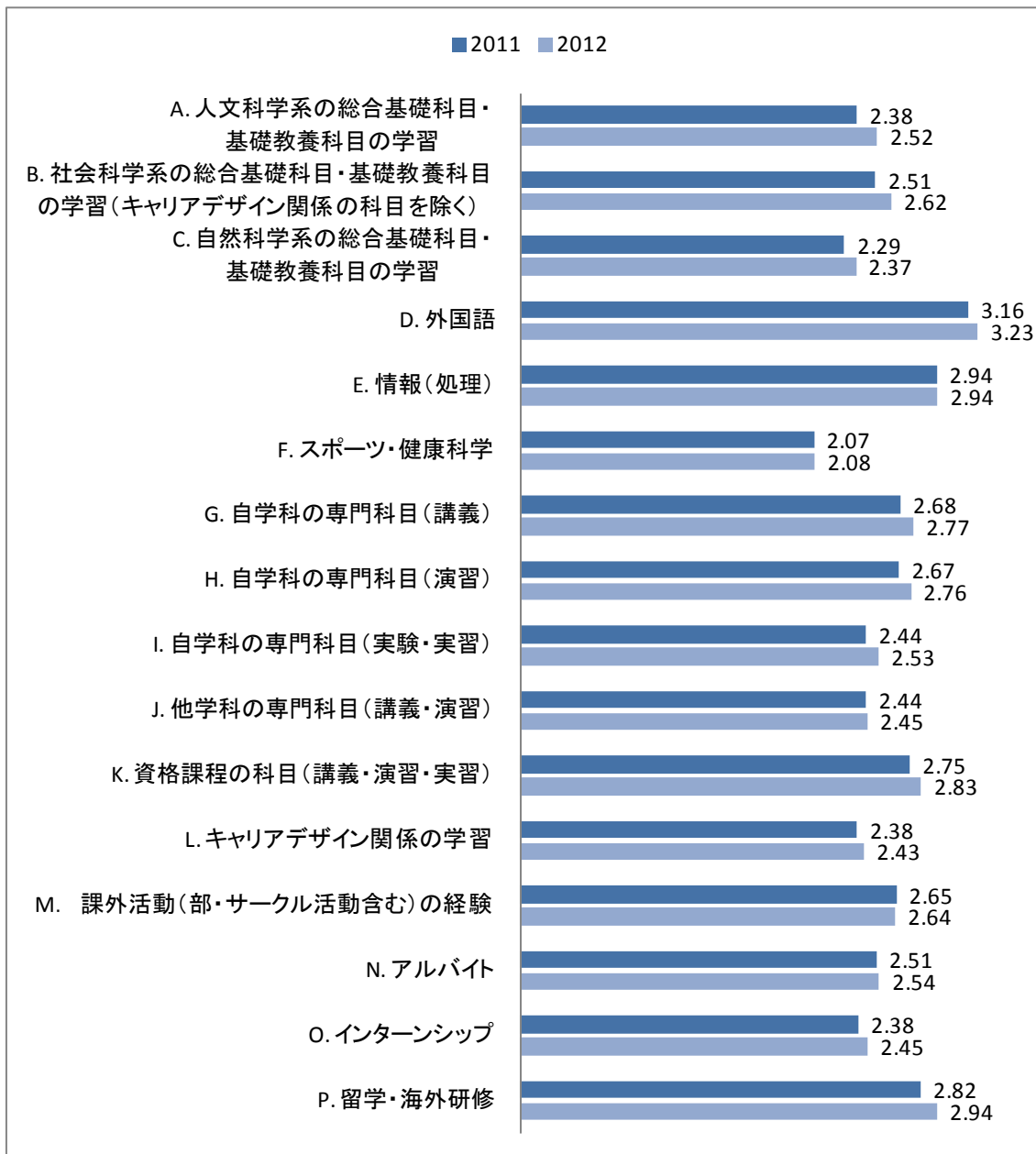
Q23 大学時代の学びや経験は、あなたの現在の仕事にどのくらい役に立っていると思いますか。
 (「経験しなかった」を0として、「とても役立っている」(4)～「全く役立っていない」
 (1)の5件法)



課外活動の項目が最も評価が高く、卒業時点で他者と協調する力が最もよく身についた(Q16)との結果も踏まえると、何かしらの組織に所属する経験が現在まで役立っていることの表れであると考えられる。また、ついで評価が高い情報科目は、在学中あまり意欲的に取り組まれてはいなかった(Q06)ものの、比較的、社会に出て役立ったと認識されている。

Q24 大学時代を振り返って、もっと熱心に学習や経験しておけばよかったと思うことはありませんか。

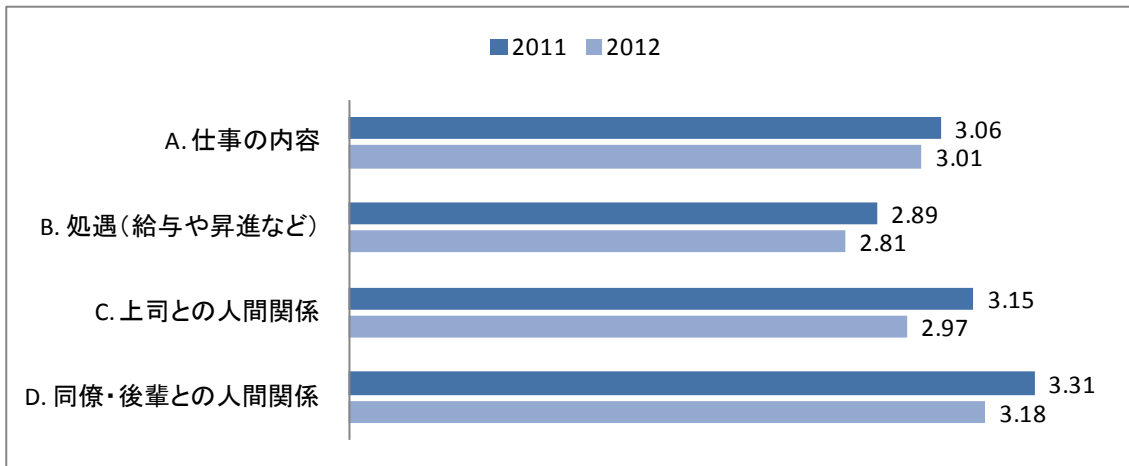
(「とてもそう思う」(4)～「全くそう思わない」(1)の4件法)



外国語が最も高く、ついで、情報科目、留学・海外研修と続く結果となった。いずれもあまり意欲的に取り組まれなかった(Q06)項目でもあったため、大学時代を振り返っての後悔の念もあるかと思われる。また、情報処理科目は、社会に出て役立つ科目としてはトップであることから、卒業後の有用性も考えると、今後ニーズがより高まる科目といえるかもしれない。

Q25 あなたは、現在の仕事についてどの程度満足していますか。

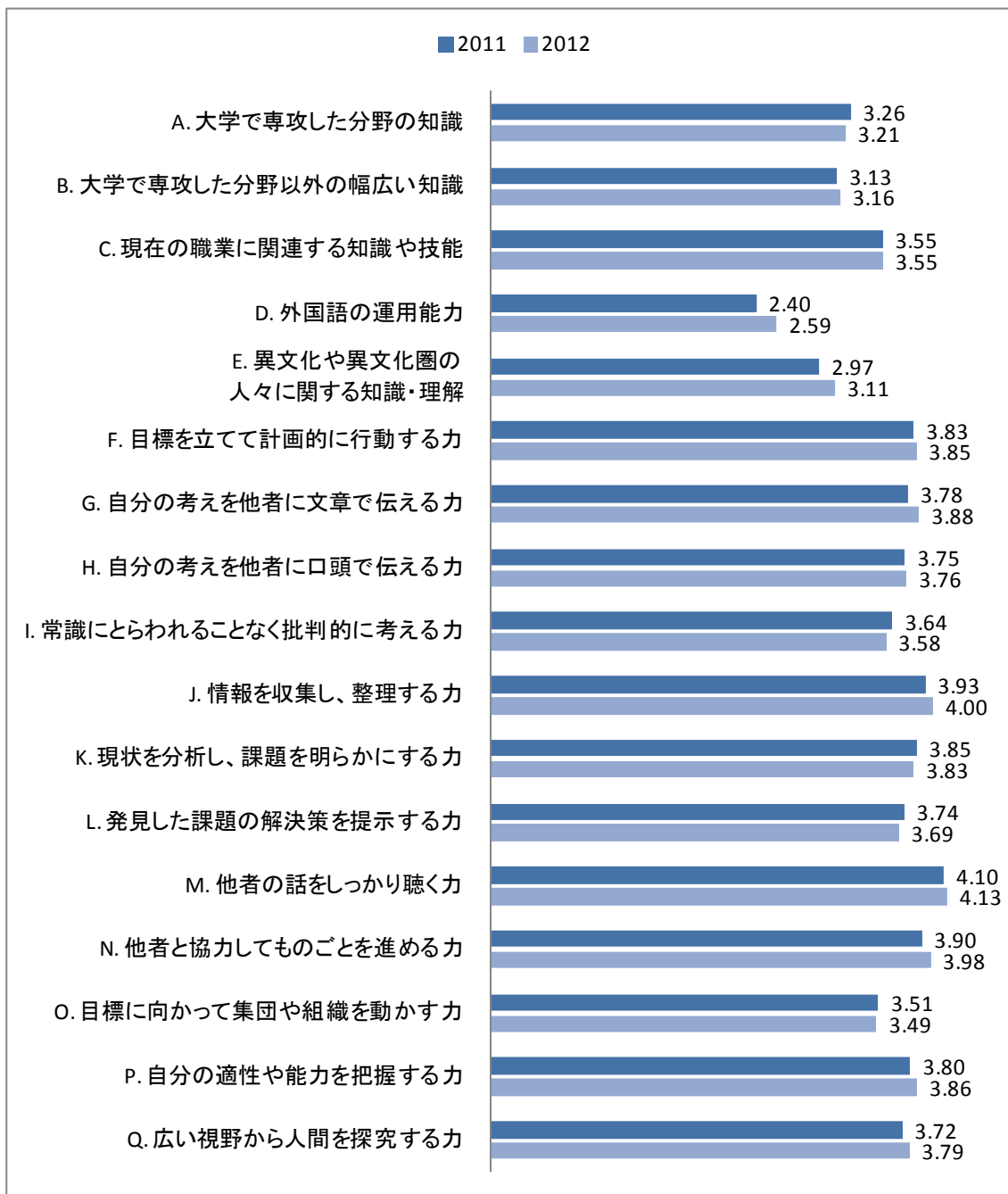
（「現在仕事はしていない」を0として、「とても満足している」（4）～「全く満足していない」（1）の5件法）



※ 平均値の計算には、0 と回答した卒業生を含まない。

どの項目も平均は3に近く、概ね満足している卒業生が多いことがうかがえる。同僚・後輩との人間関係は特に満足度が高い項目といえ、部活動やサークル活動、あるいはゼミ等の学習で同期や後輩と一緒に過ごす経験で培われた力が、社会に出ても役立っているのかもしれない。

Q26 現在、あなたは、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけていると思いますか。
 (「しっかり身につけている」(5)～「全く身につけていない」(1)の5件法)



卒業時点で身につけていた項目と同様、M、Nは相対的に高い値を示し、本学卒業生には強みと自覚されていることがうかがえる。外国語や異文化理解に関する項目は、この時点でも低い値であり、また、現在学習している割合も低かったため、社会に出た後も能力を向上させる機会が少ないようである。